

第4学年国語科学習指導案

南陽市立赤湯小学校4年2組

授業者 後藤 昌幸

1. 単元名 かわっていくごんを読もう

～新美南吉「ごんぎつね」を中心に～

2. 単元の目標

- ・「ごんぎつね」を読んで、ごんがどこから、どのようにかわったのかについて意欲的に読み、わからないことを解決するために聞いたり、話したりしようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・それぞれの場面をかかわらせながら読み、読み取ったことを書きまとめていくことを通して、場面の展開とごんの心情の変化を考えたりすることができる。(読むこと)
- 想像したことや考えたことを交流して一人一人の読み方に違いがあることに気付き、場面の展開とごんの心情の変化について考えを広げたり深めたりすることができる。(読むこと)
- ・表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書をつかって適切に調べることができる。(国語の特質)

3. 教材について

教科書教材の中では、はじめて出会う悲劇である。児童は悲しみや切なさを読後感としてもつだろう。そして、「ごんはどうして撃たれてしまったのだろう」「どうして撃たれなくてはならなかったのだろう」という強い疑問をいだく。そのような疑問をもちながら読むと、物語冒頭のごんのいたずらが、撃たれてしまう原因なのだとわかる。たしかにそれが原因だが、しかし、ごんの思いは兵十や村人の気付かないところで「変化」し、ごん自体も「変容」している。そのすれ違いが、悲しい、切ない読後感を生み出すのだ。

ごんの変化・変容をうながす契機は、物語の中に5つある。兵十のおっ母の葬式を見て穴の中で考えたとき、いわしをなげこんで「いいこと」をしたと思ったとき、毎日毎日自分で山のものを取って兵十の家に届け続けているとき、兵十と加助の話聞いてもなお、翌日兵十の家に栗を届けに行くとき、そして兵十に気付いてもらえたとき、この5つである。物語の中で、これだけ主人公が「変わる」きっかけを迎えていくものは少ない。そこで、今回はこの教材の特性を生かして、これまでの場面読みに加え、単元を通して《ごんはどんなふうにかわったのかなあ?》を児童になげかけ、多様な読みを引き出していきたい。

4. 児童について

努力は報われると信じている児童が多い。学習の積み重ねが結果につながったり、全校発表のためにみんなで練習したことが本番での成功につながったりすることを、体験から学んでいる。陸上記録会や水泳、なわとび大会、運動会など体育的な面でも同様である。だからこそ、ごんぎつねが撃たれてしま

うことの理不尽さに衝撃を受け、ごんはどうして撃たれなくてはならなかったのかを一生懸命に読んでいこう。

3年生「モチモチの木」から、学習課題を自分達で立ててお互いの読みを交流する活動を経験している。その中で、自分一人では考えつかなかったことに気付ける楽しさを感じている児童もいる。また、話し合いを進めるうちに、新しい課題が生まれて議論が白熱するという場面もあった。多くの子が理由を本文に求めながら発言をすることができる一方で、まだまだ発言に消極的な子もいる。今回は、単元を通して二項対立的な問いを設定して、自分と相手の考えを比べながら聞いたり、話したりすることを促していく。また、後述の「補助黒板」「一覧表」の手立ても、なかなか発言できない子の助けになればと思っている。

3年生9月の「わたしと小鳥とすずと」4年生6月の「白いぼうし」では、それぞれ同一作家の作品の読み広げを行い、複数の作品から作家や人物を読んだ。特に「白いぼうし」では、お客とのかかわりから、「松井さん」がどのような人物かを考える経験をしている。「ごんぎつね」においては、今読んでいる場面と、それまでの場面をかかわらせながら、ごんが変わっていく様子をとらえさせたい。

5. 学習指導にあたって（研究テーマとのかかわり）

学び合いを通して、表現力を高める指導の工夫

(1) 学習課題の設定（視点1：子どもとともにつくる学習課題）

「どうしてごんは撃たれてしまったのか」「ごんはどうして撃たれなくてはならなかったのか」という児童の中に生じる強い疑問を軸にして単元を組む。そのような問いが生まれるのは、いたずら好きでひとりぼっちのきつねであったごんが、だんだん変わっていくのを読みながらわかっているからである。ごんの変化や変容に着目しながら各場面を読み、どこで、どのように変わっていったのかということクラスで追究することを通して、「読みながらわかっていた」ことを読み深めていく。

(2) 意見の一覧表の活用（視点2：必然性のある学び合いの場）

前時に書いた考えを座席に対応した一覧表におこし、配付する。児童が、友達の考えを知るということとともに、自分の考えとの違いに気付くための手立てである。一覧表をもとに、どうしてそう考えるのか、それはどこからわかるのかをお互いにたずね合ったり、こたえ合ったりしながら交流をしていきたい。本単元ではじめて用いる手法であるため、授業の中で使い方を教えながら、交流の仕方を学ばせていきたい。

(3) 「ごん巻物」でビフォー・アフターをとらえ、ごんが変わっていく様子をつかむ（視点3：学習や生活に活かせる観点）

ごんのかわっていく様子をとらえるために、「ごんの兵十への気持ち」「ごんの兵十との距離」といったごんの行動・心情やごんと兵十との関係に関する観点で、前の場面とどう変わっているか、叙述をもとにしてつかませる。場面を関連づけながら、ごんが変わっていく様子をとらえるために、一場面読み終わったら一枚のワークシートを貼り足して完成する「ごん巻物」の作品づくりを設定する。ごんが何をきっかけにしてどのように変わったのかを自分なりにまとめる時間を保障し、単元を通して「書く」活動を位置付けていく。

6. 単元の学習指導と評価の計画（全10時間扱い 本時7/10時）

次	時	学習活動（○）と学習指導（・）	評価（☆）と支援（※）
1	1	○教師の音読を聞いて感想をもち、書く。 ・これまで学習した感想の書き方の中から、場面や事柄、登場人物に視点をあて、自分は思うかを書かせる。	☆音読から物語の大体をつかみ、感想をもつことができる。 ※これまでの物語の学習を想起させながら、交流を通して自分の意見を広げたり、深めたりする学習活動のゴールイメージをもたせる。
	2	○音読し、分からない言葉の意味を確かめ、調べる。 ○初発の感想一覧表を読んで、友達の考えを知る。 ・感想が集中している場面や事柄に着目させながら、課題を共有させる。	☆分からない語句の意味や使い方を、辞書を使って調べることができる。 ※感想が集中する6の場面に着目させ、次時の課題につなげる。
	3	○「どうしてごんはうたれてしまったのか」を考え、交流する。 ・原因がいたずらにあることと、そこからごんの兵十に対する感情や、ごんと兵十の関係が、どのように変わっていったか（変わらなかったのか）に着目させる。 ・1の場面のごんについて、「いいきつね」か「わるいきつね」かを考えて、ごん巻物①に書く。	☆初発の感想から出た問いを考えることを通して、ごんのいたずらの様子やその理由などを考えることができる。 ※「ひとりぼっち」や、穴の中や外の様子から、いたずらの原因を考えさせる。 ※1の場面でのごんは、どんなきつねだったかを考えさせる。
	4	○「ごんの行動や、ごんの兵十に対する気持ちは、どこから、どう変わったのだろうか」を考え、読みの課題を立てる。 ・ごんが変わるきっかけになったところを本文中から見つけさせる。 ①そう列を見たとき ②兵十にいわしをあげたとき ③栗をひろっては兵十にとどけたとき ④兵十と加助の話聞いたのに、明るく日も栗を兵十にとどけたとき ⑤兵十にうたれたとき	☆ごんが変わっていくきっかけになったところを本文から探すことができる。 ※いたずら好きのきつねから、兵十と出会ってどんなことをするようになったか、ごんの行動やそこからわかる心情に着目させることで、変わるきっかけをとらえさせる。 ☆学習課題を立て、単元の見通しをもつことができる。 ※単元を通して、ごんの行動・気持ちの変化や兵十との関係や距離の変化を巻物に表していくことを伝え、活動に見通しをもたせる。また、ごん巻物の完成見本を示して、目的意識をもたせる。
2	5	①の課題を考え、自分のいたずらと兵十のおっ母の死をつなげて考え、後悔するごんの姿を読む。	☆前の場面と比べたり、それぞれの場面をかかわらせたりしながら読み、ごんの行動や兵十に対する思いの変化を考えたりすることができる。
	6	②の課題を考え、売り物のいわしを盗んで投げ込んでいるにもかかわらず、それを「よいこと」として満足しているごんの姿を読む。	※ごんの台詞や行動から、兵十に対する思いを考えさせる。児童から発言されたキーワードを取り上げたり、教師が示したりしながら、叙述をもとに読めるようにする。
	7 本時	③の課題を考え、兵十の家に毎日通い、つぐないだけではない、兵十への思いが生まれ始めたごんの姿を読む。	※1時間ごとにワークシートを貼りためていき、前時の学習を活用する。
	8	④の課題を考え、「神様のおかげ」と言われて自分の兵十に対する本当の思いに気づき、兵十へ栗をもっていく意味を変化させるごんの姿を読む。	☆想像したことや考えたことを交流して一人一人の読み方に違いがあることに気づき、場面の展開やごんの心情の変化について考えを広げたり深めたりすることができる。
	9	⑤の課題を考え、兵十に自分だと気付いてもらったのに死んでいくしかないごんの気持ちを読む。	※意見一覧表をもとに、自分の考えと友だちの考えを比べ、わからないところははずねたり、意見を出し合ったりできるようにする。
3	10	○これまで読んできたことをふり返って、ごんはどのように変わっていったのか、考えをまとめる。 ・「どうしてごんはうたれてしまったのか」について、自分の考えがどう変わったかまとめる。	☆話し合いの内容を「ごん巻物」をもとにふり返り、ごんがどこでどのように変わったのかを書きまとめることができる。 ※はじめの学習課題を再度考えさせることで、変わったところと変わらないところを意識させて書かせる。

7. 本時の学習指導

(1) 目標

いわしを放り込んで「つぐない」と思っていたごんが、栗や松たけをひろっては兵十の家にとどけるようになった変化とその理由を、前の場面と比べながら読み、友だちと考えを交流し、書きまとめることができる。

(2) 学習指導過程

時	学習活動 (数字) 発問 (○) 児童の反応 (・)	学習指導・支援 (□) と評価 (☆)
	<p>どうしてごんは、栗を拾っては兵十の家に置いていくようになったのか。</p>	
10	<p>1. 前時に書いた意見の一覧表を読んで、友だちとの考えの違いに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵十がこれからもずっと食べ物に困らないように毎日毎日とどけていたのだと思う。 	<p>□「なるほど」と思うものには赤、「自分とは違う」と思うものには青線を引かせながら、一覧表を読む。</p>
20	<p>2. 友達に質問したり、友達の意見に付け足したりしながら、課題について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物に困らないようにという意見に付け足して、兵十に元気になってもらいたかったからだと思う。 ・「つぐない」と書いてあるんだから、「元気になってほしい」はちょっと違うんじゃないかな。 <p>○「ごんは、どうしていわしではなく、くりや松たけを持って行くことにしたのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いわしを投げ入れた後、兵十がいわしやにぶんなぐられてしまい、これではつぐないにならないと思い、自分でとれる栗や松たけを持って行くことにした。 <p>○「なぜそこまでして、ごんは兵十に届けたいと思っていたのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりぼっちで自分と同じだから喜ばせたいと思っていた。 ・かわいそうな兵十に何かしてあげたいと思っていた。 	<p>□どうしてごんは「栗をひろっては兵十の家に置いていくようになった」のか、心情を前後の文から考えさせる。特に、前の場面とのつながりを意識できるよう、前時までのワークシート (巻物) を参照させ、どこが違っているのかを考えさせる。</p> <p>□変化をとらえるのに必要なキーワードを継続して掲示する。本時では特に、「ひとりぼっち」「つぐない」「よいこと」など、キーワードになる言葉をピックアップしたり、「これはしまった」「かわいそうに兵十は」などごんの心情がわかる叙述を教師から提示したりする。</p> <p>□児童の発言には、前時までに学習したところと今日学習するところが混在していると思われる。そのつながりが分かるように板書をする。また事実をもとにした因果関係の説明と心情の変化についての言及、2つの相があらわれる。整理しながら聞き、板書していく。</p> <p>☆友達の意見を聞きながら、自分の考えに根拠をもって話すことができる。(発言)</p>
10	<p>3. 話し合いを通して、自分の考えを書きまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごんはつぐないの気持ちをもっていわしを投げこんだけれど、自分のせいでなぐられたり、一人ぼっちになってしまった兵十に元気になってほしいという気持ちになって栗をあげるようになった。(A) ・いいことをしたと思っていたのに、殴られた兵十を見て、「しまった」と思っているので、違うことでつぐないをしようとした。(B) 	<p>☆話し合ったことをもとに、ごんの行動が変わる理由を、場面の移り変わりをふまえて記述している。(B基準)</p> <p>☆B基準+ごんの会話や行動の変化をもとにして、その理由を兵十への思いの変化と結びつけながら考えている。(A基準)</p> <p>□自分が特にいいと思った意見や本文の中の言葉を引用しながら、自分の考えをまとめられるようにする。</p>
5	<p>4. 次の時間の課題について、本文を読み、自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気になってほしいと思って、喜んでもらえていることはわかったのに、「引き合わないなあ」って言うのはどうしてなのかなあ。 	<p>□時間があれば該当の箇所を読み聞かせ、場面を想起させる。</p> <p>□「兵十と加助の話聞いたのに、明るる日も栗を兵十にとどけるごんについて、どう思うか。」付箋にまとめさせ、一覧表をつくる。</p>

第4学年 国語科学習指導案

平成28年12月7日(水)

指導者 梅津 純子

1. 単元名 主人公のきつねを、読書新聞で紹介し合おう

教材名「ごんぎつね」「『読書発表会』をしよう」(教育出版)

「きつねが登場する物語」

2. 単元の目標

- (1) 自分が読んだきつねの物語から紹介したい主人公のきつねを選び、読書新聞にまとめて紹介しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 物語のおもしろさを紹介するために、登場人物の移り変わっていく行動や気持ちを、情景描写などとも関わらせながら、想像豊かに読むことができる。(読むこと)
- (3) 心に残った場面を紹介するために、文章の中心となる大事な事柄に着目して読むことができる。(読むこと)
- (4) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあり、相手に伝えるために適切な言葉によって表すことが大切であることに気づくことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3. 教材について

はじめに「ごんぎつね」では、場面の移り変わりに注意しながら、主人公「ごん」の行動からあらすじをつかみ、主人公の人物像を捉える。また、ごんが自分の行為を後悔するところから、兵十への思いを一方向的に膨らませていく心情の変化を大きくつかみ、主人公の気持ちの変化を読み取らせて読書新聞にまとめていく方法を知る。

次に「きつねが登場する作品」を読み、主人公のきつねの行動からあらすじをつかみ、主人公の性格や気持ちの変化を想像豊かに読み取り読書新聞にまとめていく。

4. 児童について

文学的文章の授業では、4月に「白いぼうし」を教材として、会話文や色、においを表す言葉に着目して人物の性格や心情、場面の様子を想像して読み、それを生かして日記に書くことを学習した。また、7月に「ぞろぞろ」を教材として、台本に音読記号などを書いて役になりきって音読発表会を行った。物語の登場人物をとらえ、登場人物の性格などに気づくことはできるようになったが、登場人物について簡潔に表したりあらすじや好きな場面をわかりやすくまとめたりすることはあまりできていない。そこで、本単元では、人物の会話や行動を手がかりに心情を想像して変化をとらえさせ、友達との交流によって、自分の読みを深めたり、友達の選んだきつねのおもしろさを味わったりしながら、普段の読書活動の幅を広げていけるようにしたい。

5. 指導にあたって

学び合いを通して、表現力を高める指導の工夫

(1) 目的意識をもって主体的に取り組むための課題設定

・付箋紙の活用・・・主人公の気持ちの変化のわかるところに青の付箋紙、好きな場面や気になる場面に黄色の付箋紙を貼ることで、後で読み返すときの目安になる。

・読書新聞作り・・・きつねが登場する作品を読んでおもしろさを新聞にまとめて紹介することを単元を貫く言語活動に位置づけることで、新聞にわかりやすくまとめようと何度も読み返し主体的な読みにつながる。

(2) 言葉にこだわりを持ち、課題解決するために必要感のある学び合い

・グループ交流・・・読書新聞作りの途中の相談タイムや読書発表会の前にプレ紹介の時間を設定することで、途中経過をお互いに確認してアドバイスやアイディアをもらったり、友達のよさを取り入れたりして、よりよいものを作ろうとすることができる。

・読書発表会・・・話し手、聞き手の両者が互いに関心を寄せあい、主体的な交流が進められるようにする。

(3) 他教科や生活に生かす知識・技能

・関連図書コーナーの設置・・・町立図書館からお借りした「きつねが登場する物語」20冊を学級文庫に設置し、自由な時間にたくさん触れさせることで、主人公のきつねの性格や気持ちの変化を比べながら読むことができるようにする。

6. 単元の学習指導計画（14時間扱い 本時13教時目）

次	時	学習活動	【評価の観点】 評価規準（評価方法）
第一次 見通しをもつ	1	・教師による読書新聞の提示により、「きつねが登場する物語」の中からおすすめのかつねの本を読書新聞で紹介するという言語活動への見通しをもつ。	【関心】きつねが登場する物語を読み、読書新聞をつくって紹介したいという思いを膨らませている。（観察、ノート） 【読む】おすすめのかつねを紹介するために、きつねが登場する物語を選んで読んでいる。（ノート）
	並行読書	・読書新聞による紹介の方法について話し合い、学習計画を立てる。 ・おすすめのかつねを紹介するために、きつねが登場する物語を選んで読む。	
第二次 ごんぎつね新聞を	2	・登場人物の言動に注意して「ごんぎつね」のあらすじをまとめる。	【読む】物語の構成を理解し、主人公の行動を中心にあらすじをまとめることができる。（観察、ノート）
	3	・あらすじをもとに場面ごとの「ごん」の気持ちやその変化について考える。	【読む】場面と場面を関連づけて、気持ちの変化がわかる叙述（行動、情景）に着目しながら、主人公の性格や気持ちの変化を読み取ることができる。（観察、ノート）
	4		
5	・「ごん」と「兵十」の関係を考えなが	【読む】心に残った場面を見つけ、その理由を書い	

		ら、一番心に残った場面を見つける。	ている。(ノート)
	6	・一番心に残った言葉を見つけて、自分の感動が伝わるような副題を考える。	【読む】一番心に残った言葉を引用し、その理由をまとめたり、副題を書いたりしている。(ノート)
	7 8	・「ごんぎつね」の読書新聞を完成する。	【読む】人物の行動や性格、人物との関わりについて読み取り、感想をまとめることができる。(読書新聞)
第三次 きつねが登場する物語の読書新聞を作る	9	・きつねが登場する物語のあらすじをまとめる。	【読む】自分が選んだきつねが登場する物語で、主人公のきつね行動を中心にあらすじをまとめることができる。(観察ノート)
	10 11	・きつねが登場する物語を読んで、主人公のきつねの性格や気持ちの変化を読み取ったことをまとめる。	【読む】場面と場面を関連づけて、気持ちの変化がわかる叙述(行動、情景)に着目しながら、主人公のきつねの性格や気持ちの変化を読み取ることができる。 (観察、ノート)
	12	・一番心に残った言葉を見つけて、自分の感動が伝わるような副題を考える。	【読む】一番心に残った言葉を引用し、その理由をまとめたり副題をつけたりすることができる。(ノート)
	13	・グループで自分が選んだ物語のプレ紹介をし、読書発表会でおもしろさが伝わるための工夫を考える。	【関心】グループで自分が選んだ物語のプレ紹介をする活動を通して、読書発表会でおもしろさが伝わるための工夫に気づくことができる。(観察、ノート)
	14	・読書発表会をしよう ・自分が選んだきつねが登場する作品を紹介し合い、学習のふり返しをする。	【関心】自分が選んだきつねが登場する作品について工夫して紹介しようとしている。(観察)

7. 本時の指導

(1) 目標

- ・グループで自分が選んだ物語のプレ紹介をする活動を通して、読書発表会でおもしろさが伝わるための工夫に気づくことができる。

(2) 指導過程

	学習活動 T 主な発問 C 期待する反応	・指導上の留意点 ☆評価(方法)
10	1 本時のめあてをつかむ。 めあて プレ紹介をしておもしろさが伝わる紹介の工夫を見つけよう。	・全体計画の中で、本時の学習を確認させる。
	2 紹介のカギを使って、紹介する内容を吟味する。 T 紹介する内容を選び、話す順序を考えメモを作りましょう。	<紹介のカギ> ・あらすじ ・主人公の性格

	<p>C 始め・・・紹介する本の題名・あらすじ 中・・・好きな場面・〇〇への手紙 終わり・・・みんなに伝えたいこと</p> <p>C 始め・・・紹介する本の題名・副題 中・・・〇〇にインタビュー おすすめの場面 終わり・・・みんなに伝えたいこと</p>	<p>・気持ちの変化 ・好きな場面</p> <p>① 紹介のカギを確認する。 ② 内容を選ぶ。 ③ 話す順序を考え、紹介メモを作る。</p>
20	<p>3 <u>グループ</u>に分かれてプレ紹介をする。</p> <p>T グループでおすすめのきつねの本を紹介し合い、内容や紹介の仕方でのよい所やアドバイスをし合いましょう。</p> <p>C ぼくが紹介する本は、『ビルにきえたきつね』です。この話は、… きつねにインタビューしてみました。「なぜ人間になって手品をしたのですか。」と聞いた所、「みんなに見られたかったから。」ということでした。… ぼくのおすすめの場面は、最後に人間にきつねだと知られ、鈴木さんに助けてもらう場面です。わけは…。 最後に、鈴木さんはきつねに魚をあげてやさしい人なので、ぜひ読んでみてください。</p> <p>C インタビュー形式をとってきつねの気持ちを想像して答えているのいいね。</p> <p>C あらすじが短くまとめていてわかりやすいね。</p> <p>C おすすめの場面のページを見せるとわかりやすくなるね。</p>	<p>・紹介する順番や内容についての聞き手の感想を、話し方の工夫に生かすようにさせる。</p> <p>・<u>効果的な紹介について気づいたことをノートにまとめる。</u></p>
10	<p>4 全体で効果的な紹介について気づいたことを交流し、紹介するときの工夫のポイントをおさえる。</p> <p>T グループでプレ紹介をして気づいたことを発表しましょう。</p> <p>C 〇〇さんは、おすすめの場面を実際にそのページを開いて見せて説明してくれてわかりやすかったので、ぼくもやりたいです。</p> <p>C △△くんの紹介で、あらすじを聞いておもしろそうだったので、あらすじのまとめ方を工夫したいです。</p> <p>C インタビュー形式をとると、きつねの気持ちの変化を聞いていてわかりやすかったです。</p>	<p>・どんな感想をもらって、次の時間にどのように生かすかを発表させる。</p> <p>☆グループで自分が選んだ物語のプレ紹介をする活動を通して、読書発表会でおもしろさが伝わるための工夫に気づくことができる。(観察、ノート)</p>
5	<p>5 次時の見通しをもつ。</p> <p>T 次の時間、友達が読んでみたくなる紹介をしましょう。</p>	<p>・自分のおすすめのきつねを紹介し、他のきつねの本の紹介を聞こうとする期待を持たせる。</p>

第1学年国語科学習指導案

小国町立小国中学校

須田 裕美

1 単元名 根拠を明確にして魅力を伝えよう ―鑑賞文を書く―

2 単元の見目標

- (1) 身の回りにある様々なジャンルの歌の歌詞の中から、自分が気に入ったものを選び、その良さを紹介しようとする。
〈国語への関心・意・態度〉
- (2) 自分が感じた作品の特徴や良さを互いに出し合い、考えを広げたり整理したりすることができる。
〈話すこと・聞くこと〉
- (3) 観点を立てて鑑賞し、根拠を明確にして構成を考え、読み手を意識した鑑賞文を書くことができる。
〈書くこと〉
- (4) 感じたことを表す語彙を増やし、作品の魅力を表現する方法を身に付けることができる。
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関わる事項〉

3 教材について

学習指導要領「書くこと」の言語活動例に「関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと」がある。中学生にとって一番身近な芸術作品は、身の回りにあふれる様々なジャンルの歌詞ではないかと考える。普段何気なく聞いている歌詞を視点を持って分析することで、言葉の学習に対する興味関心が高まり、その他の身の回りにあふれる芸術作品や言葉に対しての見方も変わるものと考えられる。

4 生徒について

詩の朗読や鑑賞は楽しみながら行ってきた。文章を書くことにもあまり抵抗はないクラスである。ただ、行間を読むような深い読み取りや構成を工夫した表現は、できる生徒に限られている。

また、文学作品を読み取る際などにグループでの話し合い活動を行ってきたが、互いに協力して和やかに話し合いを進めることができる。しかし、個々の能力差が大きく、自信のない生徒はなかなか意見を言えなかったり、国語の得意な生徒の意見に全体の意見が流されてしまう場面も見られる。それぞれが感じ取ったことを話し合いの中に生かすことで、国語の苦手な生徒にも成就感を与えていきたい。

5 指導にあたって

目的意識を持って主体的に取り組むための、生徒と共に作る課題設定

今回は、生徒が好きなアーティストの曲やアニメの主題歌などの歌詞を、アンケートを基にした選択肢の中から生徒に選ばせる。教師作成のモデルを見せることで学習の最終ゴールのイメージを持たせたあと、自分が取り組む作品を選ばせることで、見通しと意欲を持って学習に取り組めるようにしたい。

一人一人の思いを大切に、課題解決のために必要感のある学び合い

一つの作品について、3～4人のグループで意見を交換し合うことで、考えを広げたり深めたりさせたい。話し合いを通して、言葉一つ一つの特徴や表しているもの、自分が感じ取ったことを整理して文章にまとめることで、根拠を明確にして魅力を伝える文章を書くことができると考える。

他の学習や社会生活にも生かせる知識・技能

さらに読み取ったことを鑑賞文にまとめる際に、評価を表す言葉や文章の構成を学ばせることで、今後の表現活動にもつながるようにする。

6 単元の指導と評価の計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> 感想文と鑑賞文の違いを確認する。 教師作成のモデルを見ながら、学習の見通しを持つ。 鑑賞文を書く作品を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとっても親しみ深い作品をモデルにする。 事前のアンケートで生徒に人気のあった作品から選ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しを持ち、意欲的に鑑賞文を書こうとしているか。 自分が鑑賞文を書く作品を積極的に選んでいるか。
2 3	<ul style="list-style-type: none"> 難しい表現について調べたり班で話し合ったりして意味を考える。 作品の魅力を一文で表す。 鑑賞の観点に沿って、感じたことを付箋に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ作品を選んだメンバーで班を構成する。 英和辞典、国語辞典を活用させる。 付箋一枚に一つの内容とし、内容ごとに色分けする。 	<ul style="list-style-type: none"> 難しい表現の意味を積極的に調べ、考えようとしているか。 自分が選んだ作品を鑑賞し、感じたことを付箋に書きだしているか。
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な特徴、想像できることなどを書いた付箋を班でワークシートに貼り、共通項目をまとめる。 鑑賞文に取り入れたい内容を選び、プリントにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> どこから感じ取ったことか歌詞と照らし合わせられるように、歌詞を拡大コピーしたワークシートを準備する。 班で整理するワークシートとは別に個々の鑑賞文の土台となるプリントを準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 班の中で意見を出しながら、読み取ったことを整理しているか。 自分が書く鑑賞文のイメージを持つことができたか。
5	<ul style="list-style-type: none"> 構成や使いたい言葉など、鑑賞文の書き方を確認する。 前時のワークシートを基に、600字程度の鑑賞文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に作成したプリントを参照し、どの部分から作品の魅力を伝えるかで鑑賞文は一通りでないことを説明する。 「感じたことを表す言葉」や「感想を表す言葉」を示して、鑑賞文に取り入れられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を明確にし、構成や表現を工夫しながら、鑑賞文が書けたか。
6	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞文を発表し合い、メッセージを書く。 学習活動を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活班で読み合う。 鑑賞文を読むときの観点を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞文を読むときの観点を踏まえてメッセージが書けたか。

7 本時の指導

(1) 目標

歌詞の鑑賞文を書くために、自分が選んだ歌詞から読み取ったことを班で出し合って整理し、その中から自分の鑑賞文に取り入れたい内容を選ぶ。

段階	学習活動	○主な発問と指示、・予想される生徒の反応	※指導上の留意点、☆評価
8 分	1 魅力が伝わる鑑賞文はどんなものか考える。	○生徒が書いたものと先生のモデルで魅力がより伝わるのはどちらですか。その違いはどこでしょう。 ・生徒が書いたものの方がどんなところが良いのか詳しく書いていた。 ・どこから魅力を感じるか書いている。 ○今日は、魅力の伝わる鑑賞文を書くためにどこから魅力を感じるのかを探っていきます。	※全員が知っていると思われる曲の生徒作品を選んでモデルにする。 ※2つの鑑賞文の違いに生徒自ら気づけるようにする。
	作品の魅力を伝えるための根拠となる部分を探ろう。		
3 2 分	2 教師作成のモデルについて意見を出し合い、学習のイメージを持つ。	○先生の鑑賞文をより魅力が伝わるようにする作業を一緒にやってみましょう。 ○先生が「アンパンマンのマーチ」から感じたことを付箋に書いてみました。この付箋はどの部分に貼った方がいいですか。 ・「うれしいんだいきるよろこび」の部分 ・「胸のきずがいたんでも」の部分 ○これらの部分はどんなメッセージを伝えていますか。 ・過去に何があっても生きる喜びを忘れるな、ということ。	
	3 班ごとに感じ取ったことを出させる。	○作品から感じることを書かれた付箋を、声に出して読みながら、ワークシートに貼っていきましょう。 ・～のところから、夢をあきらめたくないという強い思いが伝わる。 ・～のところから、今までつらい思いをたくさんしてきたことを感じる。	※歌詞を拡大コピーしたワークシートに付箋を貼らせていく。 ☆自分が感じたことを班の中で発表することができたか。
	4 ポイントをワークシートに書く出す。	○付箋に書かれたことの共通点やポイントとなることをワークシートに書いてみましょう。 ・「△△△△」の部分が素直になれない姿を現していて切なさを感じる。 (・班長を中心に、話し合いを進めていく。)	☆班で話し合って意見を整理することができたか。

<p>終末 10分</p>	<p>5 自分の学習のゴールを確認する。</p> <p>6 自分の鑑賞文の構想を考える。</p> <p>7 <u>学習を振り返り自己評価する。</u></p>	<p>○自分が鑑賞文に取り組んでいる作品名と、その作品の魅力を教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『全全前世』で、どんなに遠くにいても、探し続けるという強い意志と、やっと出会えて良かった、これからはずっと一緒にいたいという思いを明るい感じと悲しい感じを混ぜて表現しているところが魅力です。」 ・『キャンパス』は、少しの勇気でどんな自分にもなれることを表しています。この歌を聴くと、自信を持って生きていこうという元気が出てきます。」 <p>○歌詞から読み取れることがいろいろ出ましたが、自分が感じている魅力を伝えるのに合うものはどれでしょう。選んだものをプリントに書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班で作成したワークシートを見ながら、各自鑑賞文に取り入れる内容をプリントに記入する。 <p>・話し合いの様子や考えが深まったかを自己評価する。</p>	<p>※全員に、自分が紹介したい魅力を確認させる。</p> <p>※ 鑑賞文に取り入れたい部分に、自分の名前を書いたシールを貼らせる。</p> <p>☆自分の鑑賞文に取り入れたい部分を選んでプリントに書くことができたか。</p>
-------------------	---	---	--